

最終報告書

報告者氏名：禿 嘉人

所属：東京都立光明特別支援学校

記録日：2015年2月13日

【対象児の情報】

- ・学年 高等部2年
- ・障害と困難の内容
 - 知的障がい
 - ◎肢体不自由
- ・脳性まひ、女子。
- ・島しょ生であり、土日曜日を含めて通常は寄宿舎で生活している。
- ・簡単な漢字を含めた文字の読み書きが可能であるが、一般的な筆記用具による筆記はまひのために、たいへん読みにくく情報機器の活用が望まれている。
- ・本人は学習に対して意欲的であるが、記憶の保持が苦手なため、スケジュールややらねばならないことを忘れがちである。
- ・外出は基本的に好きだが、自分で目的地や移動手段を調べて計画を立てることはできない。

このような実態に加えて、島しょ生特有の次のような課題がある。

- ・寄宿舎での生活はたいへん規則正しく、自分で予定を立てる必要に迫られる状況が少ないため、スケジュールを自己管理するという意識をもちにくい。
- ・寄宿舎は、教育用のインターネットが敷設されておらず、パソコン等の情報機器の配備も行われていないため、情報の入手方法や寄宿舎での学習活動に制限がある。
- ・家族と離れて生活しているために、長期休業の後などに精神的に不安定になったり、ホームシックにかかったりすることがある。

【活動報告】

- ・当初のねらい
 - ・生活の場である寄宿舎でも、インターネットや情報機器を利用した活動や学習を行い、日常に生かす。
 - ・情報機器を活用して、離れて生活している家族や教員とのコミュニケーションを円滑に行い、安心できる生活を営む。
 - ・スケジュールを自己管理し、なるべく自分で判断して行動する。
- ・実施期間
平成26年5月13日～平成27年2月9日
- ・実施者
禿嘉人・永田汐里・山内泰充・市川実波・遠直美・野村美智子・木下亜紀
- ・実施者と対象児の関係
学年担任・寄宿舎指導員・グループ担任・外部専門家（ST）

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

旭出式社会適応スキル検査（ASA）を用いて、社会自立の基礎となる事柄について検査を行った。言語スキル、日常生活スキル、社会生活スキル、対人関係スキルともに獲得状況に遅れがみられるが、特に日常生活スキルの遅れが目立つ。また、社会生活スキルの中では、時間の管理と理解、困難な状況での対応、情報の収集といった項目が課題となっている。

iPad を活用するにあたっては、まひがあるために標準のオンスクリーン・キーボードでは文字入力が困難かと思われたが、特に問題なくローマ字打ちによって入力ができている。入力速度に課題はあるが、本人が外付けキーボードの使用を望まず、外付けキーボードを使用すると携帯性が悪くなることから、そのまま利用することとした。



標準のキーボードを使い片手で入力

・活動の具体的内容

iPad の導入に当たっては、本人が自信をもって取り組める「あそんでまなべる九九」「あそんでまなべる日本地図パズル」などの掛け算の九九や日本地図のパズルなどで使用方法に慣れることを試みたところ、特に抵抗なく使用を始めることができた。ゲームアプリもインストールしたが、学習アプリの方が本人の関心が高く、今でも九九やパズルアプリは積極的に使用している。



iPad 導入以前は、外出先などの情報を寄宿舍職員に調べてもらっていたが、寄宿舍に生徒が自由に利用できるインターネット環境が入ったことによって職員と一緒に調べることができるようになり、これまで以上に外出を楽しみにするようになった。当初は、ブラウザの機能や使用法は理解できたものの、検索サイトに入れるキーワードがうまくつかめなかったため教職員と一緒に検索を行っていたが、2学期に入ってからほぼ自力で検索を行うことができるようになった。なお、外出先の情報や目的地での行動などは自力で検索を行い立案できるが、移動時間や活動時間を考慮したスケジュールを立てることは現時点では困難である。インターネット検索を利用する機会は次第に増えてきており、現在は Safari が一番利用回数の多いアプリになっている。



これまでスケジュールの自己管理を意識してこなかったため、急に自分でスケジュールを立てることは困難であることが予想されたため、前段階として、写真を入れることができる日記アプリである「瞬間日記」などを活用して、自分の一日の流れを振り返ることで、ス



手持ちでの撮影は工夫が必要である



瞬間日記の記入例

スケジュールについての意識付けを行った。身近な出来事を楽しく記入することができているが、手持ちでカメラ機能を使用するときにはiPadを制しさせた状態を保持することが難しく、なかなか自分の思い描く写真が撮れずに苦労した。撮影するときには机などiPadを置けるものがある場合は、それらにiPadを立てかけて撮影したり、自分の肘を置いて手の震えを抑制したりするなど自分で工夫をしながら撮影を行うことができた。エピソードを要領よくまとめて書いたり、時系列に書いたりすることは難しいが、ときどき自主的にアプリを立ち上げて記入を行うことができた。

また、時間を意識することをねらいに「時間割HD」をインストールし、スケジュールの基礎概念の育成を試みたところ、本人が自分で工夫してスケジュールを入力しはじめた。特に朝の個別課題については、曜日ごとに組みたい課題内容を表に入力することができた。

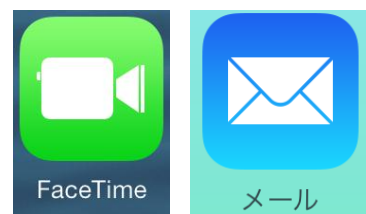


表に入力することができた。記入内容も具体的かつ現実的であり、やるべきことがしっかりと盛り込まれていた。

スケジュールや持ち物などの自己管理をねらいに、手帳アプリの導入を試みたが、現時点では必要なことをまとめて記述することが難しく、十分に使いこなすまでには至っていない。

自分で計画した個別課題の例

FaceTimeを校内で試用したところ、たいへん興味をもって楽しみ、当初は島しょにいる家族との通信を希望していたが、音声聞き取りにくいとのことだった。外部スピーカーの利用などの工夫を試みたが、本人のニーズがメールに移ったために島しょにある自宅と寄宿舎でのビデオ通信は実施しなかった。



iPadの利用が進むにつれて様々な機能を知り、積極的に活用しようとするものが増えてきている。

・対象児の変化

本人へのインタビューを、2014年6月、10月、2015年2月に実施した。

2014年6月に実施した生徒へのインタビューでは、iPadで一番多く使うアプリは「あそんで九九」などの学習アプリという回答であった。また、「今、iPadを使って一番やりたいこと」として、保護者や友達とのコミュニケーションに使いたいということあげていた。特に、学校の友達とLINEで連絡を取り合いたいという強い希望がある。iPadを利用するとスケジュールや持ち物の管理ができそうで便利だと思っているが、実際に自分でスケジュールや持ち物の管理ができるようになったとは思っていない。

補足：LINEの利用について学校内で検討中であったため、実際に利用することはなかった。

2014年10月に実施したインタビューでは、これまでやりたかったLINEや家族とのビデオ通信よりも友達とメールをすることが一番やりたいことと変化した。友達や保護者とのメールについては、日常的に行うことができるようになった。インターネットの検索については、自分の力で行うことができるようになったと自信がもてるようになった。今、一番行きたいところである嵐のコンサートについても、自分で情報を検索することができた。また、iPadを活用する時間が増えて、いろいろな機能を理解できるようになってきたと感じている。本人は、自分でスケジュールの管理ができるようになり、忘れ物が減ったと感じている。

補足：コンサートについては、会場に行く方法やチケットの取り方など、実際に行くときに必要な情報は調べることができておらず、まだコンサートに行くことは実現できていない。指導者は、忘れ物については大きな成長を感じていない。

2015年2月に実施したインタビューでは、iPadの活用法がこれまでの学習や情報を得るための利用、家族や友達と連絡を取るためのツールといったことに加えて、YouTubeによる音楽鑑賞などの余暇活動に広がっている。島しょにある自宅に帰るときにも、iPadを持ち帰り活用した。また、これまで寄宿舎にはなかった生徒が自由に扱えるインターネットができる端末が入ったことによって、できることがたくさん増えたと感じている。一番重要な機能はメールで、手軽に時間を選ばずにやりとりができることが良いと感じている。ビデオ通信については、メールに比べ自由に連絡が取れないことからメリットは感じられず、むしろ面倒であるという思いの方が強くなった。

対象児の変化をまとめると下記のようなになる。

表1. 本人の気持ちの変化

時期	2014年6月	2014年10月	2015年2月
主な用途とアプリ	学習  	検索・メール  	メール・検索・余暇活動   
主に使用する場所	学校	寄宿舎	寄宿舎・自宅
本人の気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とLINEをしたい ・スケジュール管理は難しそう ・ビデオ通信に興味があるけれど、聞き取りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で検索できる自信ができた ・メールでコミュニケーションをとりたい ・自分でスケジュール管理ができそう 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadを使ってできることが増えた ・メールが便利で大切だと思っている ・ビデオ通信は面倒に感じる

【報告者の気付きとエビデンス】

・主観的気付き

2学期になり、教員を介さずに友達と対等に付き合ったり、相手との関係を考えて無理のない範囲の要求ができるようになったりした。

昨年度は、長期休業の後に精神的に不安定になったり、ホームシックにかかったりしたが、今年度はそのような様子は見られず、心理的に安定している。

・エビデンス

ASAによる検査を、2014年6月、10月、2015年2月に実施した。

なお、ASAは言語、日常生活、社会生活、対人関係の4つの社会適応スキルについて、同年齢集団内の相対的な位置の把握やスキル間の比較ができるものである。下位領域得点は指導者による評価を得点にしたもの、下位領域パーセンタイルは下位領域得点を元に同年齢集団内での位置を示したもので、「30～60 は標準的な発達をしている」「<0.1～10 は大きな課題がある」ということがいえる。

言語スキル、日常生活スキル、社会生活スキル、対人関係スキルの4項目のうち、言語スキル、社会生活スキルについては、年間を通して大きな変化が見られなかったが、日常生活スキルの「身だしなみ」や「健康管理」、対人関係スキルの「協力的な関係」や「感情や行動のコントロール」は変化があった。以下に、当初のね

らいに関連する対人関係スキルの変化について掲載する。

表 2. 対人関係スキルの変化

【D 対人関係スキル】		2014年6月		2014年10月		2015年2月	
		下位領域得点	下位領域 パーセンタイル	下位領域得点	下位領域 パーセンタイル	下位領域得点	下位領域 パーセンタイル
D1	他人への関心と共感	16/16	60	16/16	60	16/16	60
D2	会話・コミュニケーション	6/20	10	10/20	10	10/20	10
D3	交友関係	6/10	<.01	8/10	<.01	8/10	<.01
D4	協力的な関係	3/8	<.01	8/8	50	8/8	50
D5	きまりを守る	4/10	10	6/10	10	8/10	10
D6	集団遊びのルールを守る	12/12	50	12/12	50	12/12	50
D7	礼儀	10/12	<.01	4/12	<.01	8/12	<.01
D8	他人への気遣い	0/6	<.01	2/6	<.01	2/6	<.01
D9	感情や行動のコントロール	4/10	30	3/10	30	8/10	30

2014年10月に実施した際には、「対人関係スキル」の「協力的な関係」が大きく向上している。

2015年2月に実施したASAでは、「対人関係スキル」の「感情や行動のコントロール」が大きく向上した。これは、寄宿舎での生活に慣れてきたことや家族との良好な関係に加えて、学校の友達とのメールを日常的に行うことができるようになり、本人の心理的な安定と友達との友好関係の拡大の一因になっていると考えられる。

【まとめと今後に向けて】

島しょ生特有の課題に対応するために立てた活動の3つのねらいのうち、「生活の場である寄宿舎でも、インターネットや情報機器を利用した活動や学習を行い、日常に生かす。」「情報機器を活用して、離れて生活している家族や教員とのコミュニケーションを円滑に行い、安心できる生活を営む。」についてはおおむね実現ができたと考えている。寄宿舎でのインターネットの活用については、今後すぐに教育用LANが敷設される見込みはないため、携帯電話によるものが中心になっていくと思われる。すでに本人は、スマートフォンを使い始めており、メールや検索なども行うことができている。

今後は、「スケジュールを自己管理し、なるべく自分で判断して行動する。」という課題に向けて、時間をかけて取り組んでいきたいと考える。